

「EV格付モデルと倒産確率モデル」

前回のレポート「企業評価と倒産確率モデル」では、外食産業に属する公開企業84社のポートフォリオを例に取り上げ、推定倒産確率による信用リスク評価を試みる過程で、倒産確率モデルを概観し、その財務分析ツールとしての活用方法について述べてみました。

今回は、信用リスク評価の指標としては倒産確率よりもむしろポピュラーと思われる信用格付を取り上げ、格付モデルの概要を説明し、同時に、倒産確率との関係を見てみようと思います。

今回も、前回に引き続き、外食産業のサンプルユニバースを活用します。



- ・ EVシリーズは、企業評価の信用リスク分析ツールとして、倒産確率モデルに加えて、格付モデル、ならびに、推定債務者区分モデルを搭載しています。
- ・ これら3つのモデルを組み合わせることによって、企業評価のさまざまなニーズに応え、特に、分析対象企業の経営実績および将来計画の双方において、各年度ごとの信用リスク量を客観的に測定することが出来ます。
- ・ 分析対象企業の置かれている経営環境はさまざまです。それぞれの状況に応じた適切な分析フレームワークが必要となり、冒頭の ~ のモデルを臨機応変に使いこなすことが求められます。
- ・ EVシリーズの倒産確率モデルは、大企業・中小企業合わせて約46,000社、約10万弱のサンプル・データを用いて構築されています。過去の倒産事例の捕捉性は実証されており、個社ごとの将来の倒産可能性を示唆します。また同時に、膨大な財務データの実証分析により、優れた財務分析機能を提供します。
- ・ EV格付は、弊社が独自に構築した格付モデルに基づく格付です。EV格付と本邦系格付機関が公表している長期優先債務に対する格付との間には高い適合度が観測されますが、格付との一致を保証するものではなく、本邦系格付機関による格付ロジックとは異なるクレジット・プライシング社による独自の信用力尺度です。

1 外食産業の公開企業サンプル(再掲)

前回のレポートでは、EVシリーズのリサーチ/データベース機能を活用して、次ページのようなリストを作成してみました。

リスト作成条件： 全サンプルを倒産確率の高い順に列挙
CPC独自モデルで算出された信用力指標(倒産確率/モデル格付/推定債務者区分)を表示
「財務構成・資金調達・資産効率関連指標」と「株価・EV関連指標」の双方を採用

ポイント： 倒産確率が高い企業に何等かの傾向が見受けられる
上位11社(倒産確率1.0%以上)のうち、実に9社が過去何等かの形態で事業再編に関与
倒産確率が低い企業群には、bbb格以上の企業とbb以下の企業が混在

【今回のテーマ】

倒産確率モデルの概要は分かったけれども、格付(「モデル格付」)はどのように算出されるのだろうか？
格付ランク別に倒産確率を調べてみると、どんなことが分かるのだろうか？
それでは、今回の分析結果は、具体的に、どんなことに活用できるのだろうか？

外食産業 公開企業84社リスト (原則最近時決算データに基づく、一部事業再編された企業の過去データ含む。)

会社名	PL概況		信用力モデル			DCR・BS状況			株価・EV指標			
	売上高	EBITDA率	倒産確率	モデル格付	推定債務者区分	Debt/EBITDA	自己資本比率	要注意資産比率	PBR	PER	EV/EBITDA	
バオ	5,567	4.65%	1.0%以上	b2以下	要注意先	15.63	10.36%	16.80%	2.04	n.a.	21.29	
サンデーサン	32,442	2.72%		b1	要注意先	16.02	19.27%	6.90%	2.45	n.a.	26.79	
焼肉屋さかい	16,970	3.16%		b2以下	正常先4	19.05	15.68%	0.28%	2.42	n.a.	30.82	
宮	21,912	9.58%		b2以下	正常先4	8.49	22.95%	15.47%	1.87	n.a.	13.55	
タスコシステム	17,999	9.07%		b2以下	正常先4	7.46	18.44%	12.10%	3.77	47.27	13.30	
なかつ	17,578	4.68%		b2以下	正常先4	7.54	12.11%	0.00%	3.89	n.a.	12.94	
レイズインターナショナル	80,465	8.18%		b1	正常先4	5.35	8.88%	28.03%	8.39	n.a.	15.01	
プライムリンク	6,365	13.37%		b2以下	正常先4	3.31	15.08%	33.32%	3.91	n.a.	6.79	
安楽亭	31,856	8.06%		b2以下	正常先4	9.90	19.99%	35.44%	2.10	79.36	16.17	
デン コーポレーション	9,489	2.94%		b2以下	正常先4	14.66	14.31%	27.40%	3.06	n.a.	23.92	
島屋	10,242	3.64%	b2以下	正常先4	12.92	20.46%	17.03%	n.a.	n.a.	12.92		
...	0.5~1.0%	b2以下	正常先4	7.07	
...		b2以下	正常先4	8.80	
...		b2以下	正常先4	-43.52	
...		b2以下	正常先4	5.73	
ゼンショー	125,353	6.83%		bb2	正常先4	5.51	
...		b2以下	正常先4	6.15	
...		b2以下	正常先4	3.98	
...		0.49%	bb3	正常先3	5.82	18.84%	1.45%	2.62	58.88	9.38
...		0.47%	b2以下	正常先3	50.69	28.75%	2.66%	0.78	n.a.	80.10
...		0.32%	b2以下	正常先3	5.12	18.65%	1.23%	3.31	30.74	9.32

CPC独自モデルにより算定された指標
 (信用力モデル)
 ・倒産確率
 ・モデル格付
 ・推定債務者区分
 (資産効率/推定不良資産)
 ・要注意資産比率

倒産確率の高い企業群
 ・デットカレッジレシオ(Debt/EBITDA)が高く、自己資本比率が低い傾向
 ・一方、DCRが低位にある企業も含まれる
 ・その場合「要注意資産比率」が高い傾向
 ・事業規模はマチマチ

モデル格付が低位(bb1~3以下)にあっても、倒産確率が低い企業も少なくない、これをどのように捉えれば良いか？

*「要注意資産比率」: 売上債権/棚卸資産/その他流動資産/土地/投資その他資産の5つの各資産項目につき、業界平均資産回転期間を適用して事業規模を考慮した上での業界一般の想定資産計上額を相当程度上回る場合、その超過額の総資産に対する割合を示す。

2 EV格付モデルの概要

EV格付は、3～5年程度の長期的な視点で債務の元利払い能力に対する定量評価を9段階の記号で表します。

EV格付	意味
a3以上	債務の弁済が問題なく行われる可能性が高い。
bbb1	債務の弁済が問題なく行われる可能性が高いが、長期的には問題が生じる可能性も考慮する必要がある。
bbb2	
bbb3	
bb1	債務の元利払いが問題なく行われる可能性は低くはないが、長期的には問題が生じる可能性もやや高い。
bb2	
bb3	
b1	債務の元利払いに問題が生じている、もしくは、問題が生じる可能性が高い。
b2以下	

「EV格付モデル」の特長：
 財務指標だけを説明変数として利用するモデル
 製造業と非製造業モデルの2つのモデルを装備
 モデル格付には、次の2つの制約条件を加えて最終判定している。
 前年の格付に対しての格上げは2ノッチまで
 当年の資本額に対応した格付上限
 10億円未満 b1まで
 60億円未満 bb1まで
 200億円未満 bbb3まで

[参考] モデル推定値と実際の格付との適合率

業態	格付格差	適合率
製造	0ノッチ	51%
	±1ノッチ差内	92%
	±2ノッチ差内	98%
非製造	0ノッチ	36%
	±1ノッチ差内	81%
	±2ノッチ差内	90%
合計	0ノッチ	45%
	±1ノッチ差内	88%
	±2ノッチ差内	95%

ここで、前回同様、下記の2社の財務指標を取り上げて、少々比較してみましょう。

	売上高	営業利益	自己資本	自己資本比率	キャピタリゼーション比率	総資産回転期間	倒産確率	モデル格付	推定債務者区分
ワタミフードサービス(7522)	65,817	3,275	18,286	33.63%	56.03%	9.91	0.07941%	bbb3	正常先2
三光マーケティングフーズ(2762)	18,138	2,288	4,679	44.36%	36.87%	6.98	0.04949%	bb3	正常先3

上の表では、ごく一部の財務指標しか記載していませんが、それでも、利益率水準、自己資本比率、資産回転期間どれを取っても、三光MFの方が上回っていることが分かります。やはり、ワタミフードSが上回っているのは、事業規模、すなわち売上高や自己資本の絶対額ということになります。この結果、倒産確率は三光MFの方が低いにも拘わらず、格付はワタミフードSを3ノッチも下回っています。

さて、モデル格付の算出手法ですが、すべては開示出来ませんが、概略的には、下記のような財務データ群を抽出し、各カテゴリーごとに説明変数のウェイト付けをして数値化することにより、最終的なモデル格付を算出します。

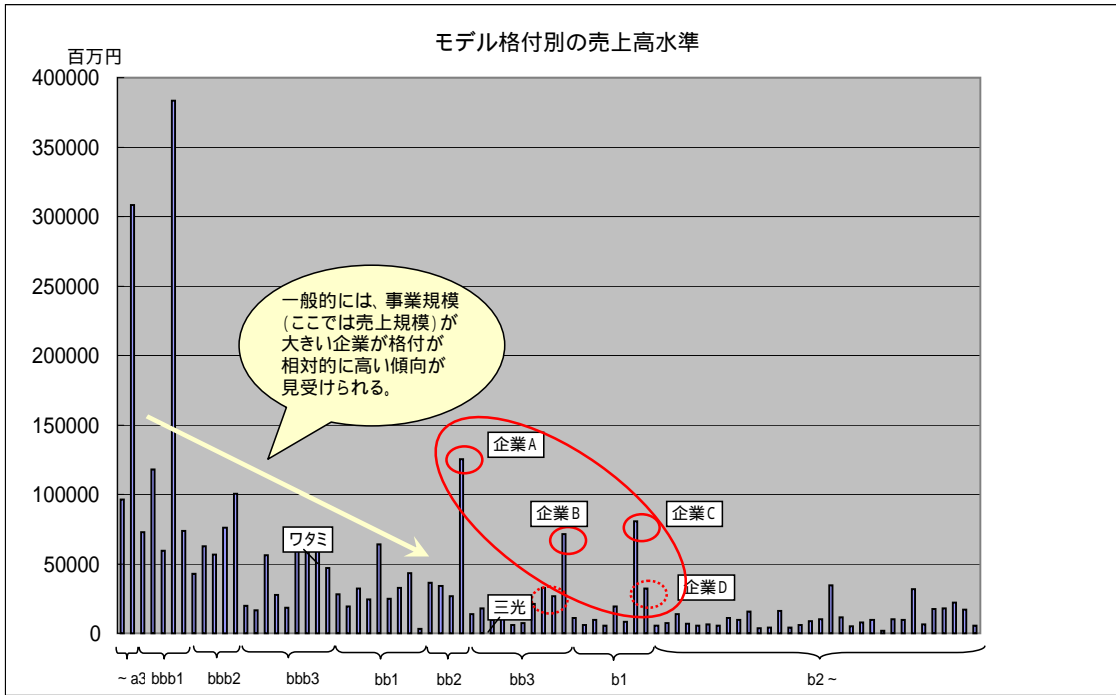
	2005年3月 ワタミフードS	2004年6月 三光MF
モデル格付	bbb3	bb3
規模		
自己資本3年平均 …(計3指標)	百万円 17,417	3,399
収益性		
5年総赤字回数 …(計6指標)	回 0	0
財務構成・返済負担		
キャピタリゼーション比率	% 56.03%	36.87%
自己資本売上高比率 …(計5指標)	% 27.78%	25.80%
業種要因		
業界内総資本回転期間得点 業種フラグA/B …(計2指標・2フラグ)	-0.21	-0.92

下記は、前回ご説明した倒産確率モデルにおける指標分類ですが、やはり、上記のカテゴリーと指標のマトリクスにおいては、若干規模に関わる指標のウェイトが高くなっているように観察されます。

規模	自己資本 他1指標
収益性	売上高税前利益率 他2指標
財務構成	自己資本比率 / 雑資産比率 他1指標
資産効率	その他流動資産回転期間 他4指標
資金調達	対有利子負債キャッシュフロー比率 他3指標

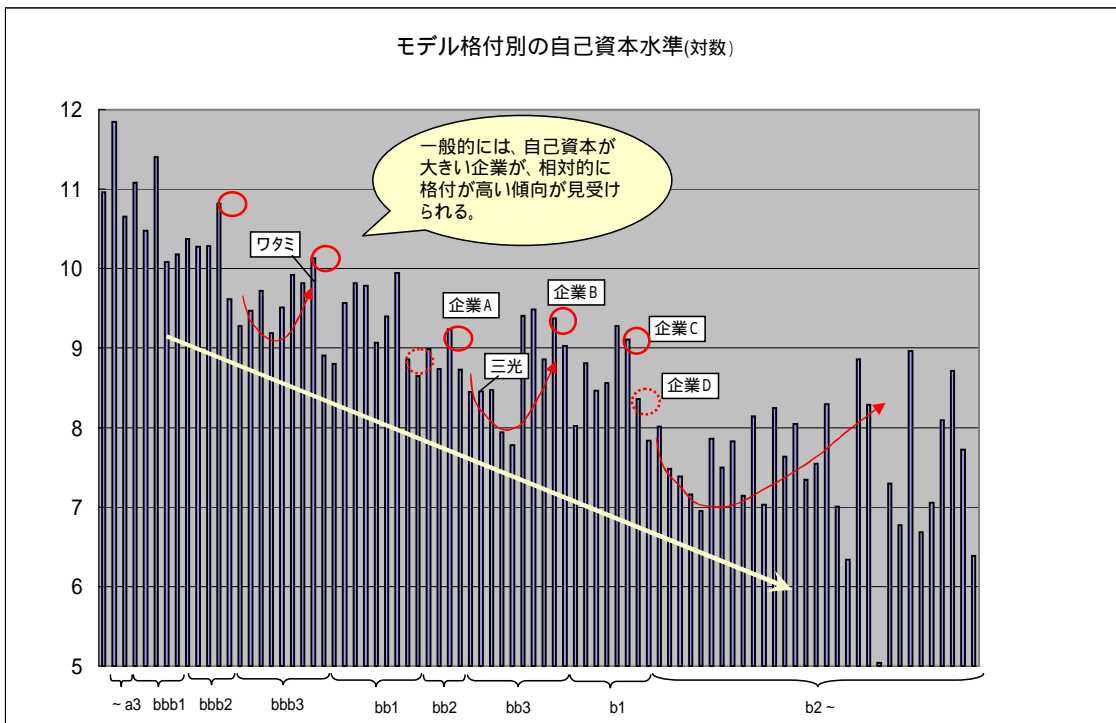
次のページでは、外食産業84社のサンプルを使って、格付と売上高、自己資本の関係性をグラフ表示により観察してみたいと思います。

3 格付と事業規模



上のグラフを見て分かる通り、一般に、事業規模(上の例では売上高)が大きい企業が格付が高い傾向が顕著に見られます。ただし、よく見ると、その傾向を逸脱する企業群(企業A~D)が存在します。これらは、企業規模は相当上位に位置づけられますが、経営財務状態から信用リスクが相対的に高いと判定されている企業です。

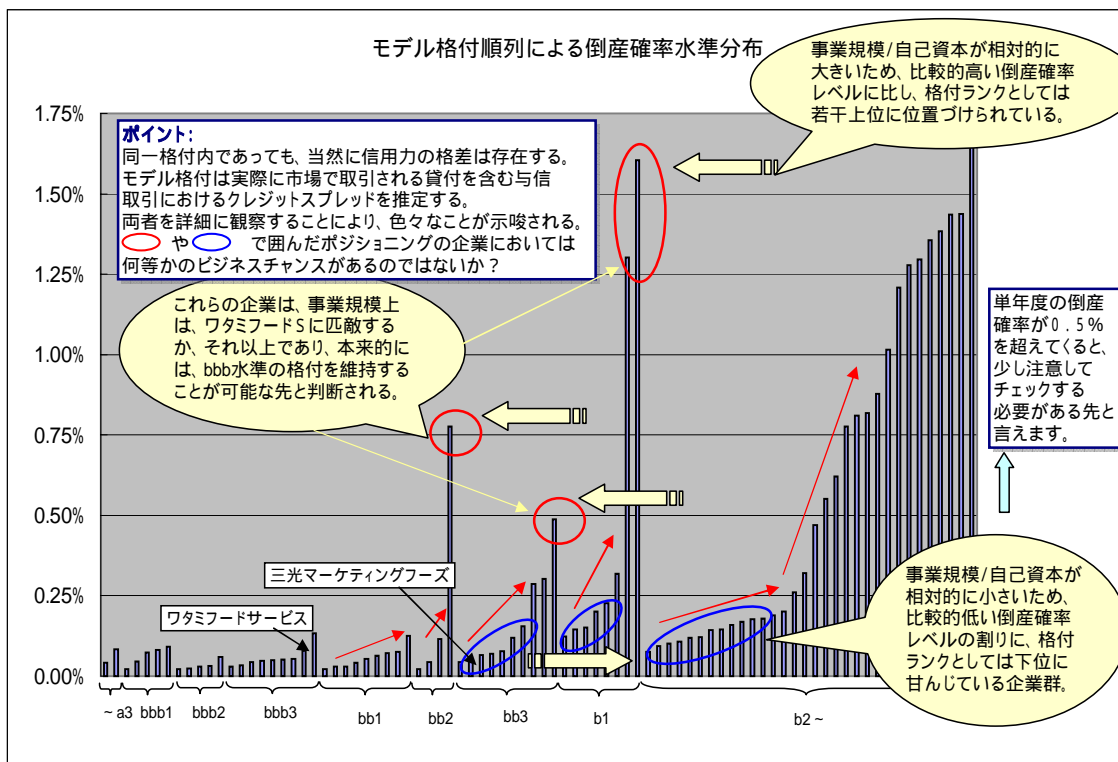
同様に、自己資本の絶対額(下記では対数表示)で見ても、やはり、自己資本が大きい企業ほど、格付が高い傾向が見て取れます。ただし、下のグラフは各格付内を倒産確率の低い順に並べていますが、格付ごとに詳しく見ると、まず売上が高い企業から始まって、徐々に売上が下がった後で、倒産確率が相対的に高い企業になると、売上規模が再び大きくなる傾向があることも分かります(企業A~D)。



上の2つのグラフで示した傾向から、モデル格付の性格とその順序付けの構造の一端が見て取れたと思います。企業A~Dは、各モデル格付内では異質な存在としてクローズアップされます。

これをより分かりやすく見るために、次のページでは、モデル格付別に倒産確率の分布を調べた結果をグラフに表示してみました。これではっきりとした傾向があることがお分かり頂けると思います。

3 モデル格付と倒産確率



上のグラフにある通り、モデル格付内を倒産確率の水準でさらに詳しく観察すると、興味深い構造が見受けられます。同一の格付であっても、当然に倒産確率の水準は個社ごとに大きく異なるわけですが、特に、低位の格付においてはその差は大きく異なります。

グラフ中のbb2~b1に位置づけられる倒産確率が突出している企業(で囲んだサンプル)が、前ページで観察した企業A~Dです。これらの4企業に、ワタミフードSと三光MFを加えた6社で、改めて主要財務指標を比較してみると、以下のようになっています。

	推定 倒産確率	自己資本 比率	要注意 雑資産比率	デッド ・カバレッジ	売上高 税前利益率	総資産 回転期間	自己資本 (対数)	モデル 格付	平均 調達金利*
企業A	0.777%	12.3%	10.6%	5.5	2.8%	8.0	9.2	bb2	1.35%
企業B	0.488%	18.8%	1.3%	5.8	1.3%	10.2	9.4	bb3	1.75%
企業C	1.302%	8.9%	18.0%	5.4	-14.7%	15.1	9.1	b1	0.89%
企業D	1.604%	19.3%	6.3%	16.0	0.7%	8.2	8.4	b1	0.82%
ワタミフードサービス	0.079%	33.6%	0.7%	4.0	4.8%	9.9	9.8	bbb3	0.43%
三光マーケティングフーズ	0.049%	44.4%	6.4%	1.0	11.9%	7.0	8.5	bb3	2.31%

*平均調達金利は直前期の支払利息/割引料を期末時点の有利子負債残高で除したもの。

注目すべきは、各社の平均調達金利です。例えば、企業Bと三光MFは同じ「bb3」のモデル格付が与えられていますが、平均調達金利は企業Bの「1.75%」に対して、三光MFは「2.31%」となっています。また、特筆すべきは、倒産確率では、逆に、企業Bの「0.488%」に対して、三光MFが「0.049%」と三光MFの方が遥かに低いということでしょう。

同様のことは、企業CおよびDでも顕著に現れています。両社ともモデル格付は「b1」と低位に甘んじており、倒産確率も1.00%を超えています。平均調達金利は1.00%を切る水準であり、一流企業の水準に収まっています。金融機関の適正貸付金利は、必ずしも倒産確率だけに依拠して決定されるものではありませんが、少々考えさせられる事例ではないでしょうか？

このデータが真実を表しているとするならば、企業C & Dへの貸金をすべて引き上げて、三光MFや企業A & Bへの貸付へ回した方がリスク管理上もマージン率も良いということになります。現実の世界においては、そう簡単にはいかないのですが、クレジットデリバティブの市場がさらに拡大し、銘柄数や取引ボリュームにおける流動性が高まれば、こういった視点での取引が発生していくのでしょうか？

さて、上記では、たまたま調達金利を題材に取り上げて議論してみましたが、このように信用格付や信用ランクをさらに詳細に分析していくことによって、今までに見えていなかったことが明らかになり、それが何等かのビジネスチャンスに繋がっていく場合も少なくないのではないかと考えています。

EVシリーズのリサーチ・分析機能を活用することによって、企業の色々な姿が見えてきます。皆さんも是非お試しください。

なお、ご参考まで、今回の全84社サンプルにおけるモデル格付ごとの平均調達金利を調べた結果を次ページに掲載しておきます。

外食産業公開企業データ(84社) モデル格付別の財務指標および平均調達金利

モデル格付	自己資本比率	要注意雑資産比率	デッド・カバレッジ	売上高税前利益率	総資産回転期間	自己資本(対数)	平均調達金利					
							個社	格付別	平均			
a3	87.2%	14.6%	0.0	2.8%	8.2	11.0	n.a.	0.75%	0.75%			
	72.1%	14.5%	0.4	2.2%	7.4	11.9	0.75%					
bbb1	68.6%	1.5%	1.2	6.7%	10.2	10.7	0.88%	0.69%	0.94%			
	66.4%	8.0%	5.2	1.2%	9.9	11.1	n.a.					
	73.0%	9.5%	0.3	-15.2%	9.8	10.5	0.31%					
	36.3%	0.5%	3.4	3.9%	7.6	11.4	0.89%					
	63.8%	0.0%	0.0	0.3%	6.1	10.1	n.a.					
bbb2	68.8%	2.3%	1.4	6.0%	10.8	10.2	0.19%	0.69%	0.94%			
	58.8%	1.0%	1.6	7.0%	10.3	10.4	0.05%					
	57.4%	7.3%	2.5	4.1%	10.7	10.3	1.20%					
	56.5%	0.0%	2.2	2.8%	8.1	10.3	1.00%					
	59.5%	9.6%	2.3	8.4%	9.9	10.8	1.01%					
bbb3	83.7%	2.4%	0.0	19.2%	10.8	9.6	n.a.	1.19%	0.94%			
	78.8%	2.9%	1.7	1.1%	9.9	9.3	1.25%					
	35.2%	0.0%	3.0	3.0%	7.8	9.5	0.64%					
	74.9%	0.0%	2.2	-6.3%	9.6	9.7	0.94%					
	68.9%	17.1%	0.9	5.4%	9.3	9.2	1.66%					
	43.6%	0.0%	2.6	3.8%	5.9	9.5	1.47%					
	58.5%	5.9%	1.2	3.7%	6.8	9.9	1.52%					
	33.6%	0.7%	4.0	4.8%	9.9	9.8	0.43%					
	49.8%	21.3%	4.5	3.6%	12.8	10.1	1.64%					
	67.7%	0.0%	0.3	5.7%	4.7	8.9	1.41%					
bb1	60.8%	0.0%	0.9	3.5%	6.8	8.8	0.84%	1.43%	1.41%			
	44.1%	0.0%	2.0	9.0%	10.5	9.6	1.37%					
	65.6%	23.2%	0.9	19.4%	13.7	9.8	1.85%					
	32.5%	0.0%	2.5	12.2%	10.2	9.8	0.99%					
	47.9%	10.7%	2.6	5.8%	8.8	9.1	0.73%					
	49.6%	1.4%	3.7	0.6%	9.0	9.4	1.12%					
	42.8%	1.5%	3.2	3.5%	13.5	9.9	2.81%					
	83.0%	4.2%	2.7	4.4%	31.0	8.9	1.75%					
	53.7%	0.0%	0.4	5.1%	3.5	8.6	2.20%					
bb2	47.9%	0.0%	3.2	0.4%	5.8	9.0	1.65%	1.44%	1.41%			
	43.6%	2.7%	7.1	0.2%	6.4	8.7	0.57%					
bb3	12.3%	10.6%	5.5	2.8%	8.0	9.2	1.35%	1.36%	1.38%			
	48.2%	0.0%	4.0	2.5%	11.0	8.7	0.98%					
	44.4%	6.4%	1.0	11.9%	7.0	8.5	2.31%					
	77.8%	0.0%	0.0	11.8%	7.6	8.5	n.a.					
	51.5%	21.3%	2.1	6.1%	9.5	8.5	0.81%					
	74.8%	0.0%	0.3	10.2%	7.4	7.9	1.37%					
	64.9%	10.3%	0.8	5.7%	5.9	7.8	1.00%					
	74.4%	19.1%	1.5	1.4%	9.2	9.4	0.81%					
	37.8%	4.1%	8.2	1.4%	12.7	9.5	1.86%					
	34.6%	1.6%	8.7	-2.8%	9.0	8.9	n.a.					
b1	18.8%	1.3%	5.8	1.3%	10.2	9.4	1.75%	1.38%	1.38%			
	57.8%	16.9%	0.8	6.0%	15.9	9.0	1.10%					
	55.5%	6.6%	2.7	3.9%	10.8	8.0	1.00%					
	62.7%	5.5%	6.0	-1.0%	13.6	8.8	2.76%					
	82.3%	31.4%	1.3	2.0%	12.4	8.5	1.41%					
	31.5%	0.8%	6.3	1.8%	10.1	8.6	1.24%					
	68.8%	9.9%	7.4	-6.3%	22.1	9.3	1.81%					
	8.9%	18.0%	5.4	-14.7%	15.1	9.1	0.89%					
b2以下	19.3%	6.3%	16.0	0.7%	8.2	8.4	0.82%	2.14%	2.12%			
	50.8%	0.0%	2.5	6.1%	10.9	7.8	1.10%					
	45.3%	3.6%	3.5	6.2%	10.9	8.0	1.99%					
	32.0%	0.0%	3.5	1.4%	4.9	7.5	1.84%					
	38.1%	0.5%	2.9	6.3%	7.5	7.4	1.83%					
	36.0%	0.0%	3.6	1.4%	7.7	7.2	2.22%					
	33.4%	0.0%	2.5	5.3%	6.0	7.0	0.95%					
	53.5%	6.2%	2.0	8.1%	10.7	7.9	1.76%					
	32.9%	0.0%	1.9	4.6%	6.0	7.5	1.97%					
	36.6%	14.6%	2.7	5.5%	8.5	7.8	2.32%					
	16.3%	0.0%	0.8	6.0%	6.0	7.1	3.51%					
	65.5%	10.4%	2.3	-1.6%	16.9	8.1	n.a.					
	34.3%	3.7%	2.2	4.4%	10.0	7.0	5.08%					
	62.8%	0.0%	0.0	4.5%	4.5	8.2	n.a.					
	47.7%	0.5%	2.8	7.6%	12.3	7.6	2.29%					
	53.1%	26.2%	4.1	4.7%	12.0	8.0	1.85%					
	18.6%	1.2%	5.1	3.8%	11.5	7.3	1.32%					
	28.8%	2.7%	50.7	-5.3%	7.6	7.5	n.a.					
	b2以下	20.4%	11.2%	4.0	0.9%	6.8	8.3			1.16%	2.10%	2.10%
		12.7%	17.6%	6.2	1.3%	8.9	7.0			2.80%		
18.7%		0.0%	5.7	4.9%	7.1	6.3	1.14%					
54.6%		22.5%	-43.5	-11.0%	19.5	8.9	n.a.					
26.4%		5.3%	8.8	-31.0%	18.6	8.3	1.83%					
8.8%		5.7%	7.1	6.0%	10.4	5.0	2.37%					
20.5%		17.0%	12.9	-7.2%	8.5	7.3	n.a.					
14.3%		27.4%	14.7	-2.4%	7.7	6.8	1.49%					
20.0%		0.0%	9.9	2.0%	14.7	9.0	3.40%					
15.1%		26.0%	3.3	1.4%	10.0	6.7	2.94%					
12.1%		0.0%	7.5	-3.7%	6.5	7.1	1.69%					
18.4%		12.1%	7.5	1.4%	11.7	8.1	1.65%					
23.0%		9.4%	8.5	0.4%	14.5	8.7	2.03%					
15.7%		0.0%	19.1	-1.9%	10.2	7.7	n.a.					
10.4%		3.0%	15.6	-2.9%	11.7	6.4	2.69%					

ワタミフードS

企業A

三光MF

企業B

企業C

企業D



弊社では、前回および今回のレポートで取り上げたような、**業界リサーチ・サービス**を、リーズナブルな価格にて提供しております。投資先発掘のためのスクリーニング資料として、営業開拓のためのマーケティング資料として、または業界の基礎調査資料として、是非ご活用ください。データ分析の切り口、アウトプットの仕様につきましても、個別にご相談に応じております。サービスの詳細につきましては、下記担当者までご連絡ください。

- ・ EVシリーズでは、近日中に、M & A取引を支援する**M & Aモジュール**の提供を開始する予定となっております。ソフトウェアに収録されている任意の2企業間の事業再編後のBS/PLを瞬時に作成し、再編後の新会社として従来通りの将来計画策定とその評価分析機能を提供します。M & A取引のソーシング時、あるいは、対象企業が決定した場合の初期調査段階においては、その威力を十分発揮するものと期待しております。
- ・ 上記「リサーチ・サービス」および「M & Aモジュール」始め、EVシリーズの機能についてご関心ある方は、**デモをさせていただきますので、是非ご連絡ください。**

【新サービスのご紹介】

企業リスク情報 & 案件評価サービス「*CREDITSurfer ONLINE*」の提供を来月より開始いたします。

本サービスは、弊社としては初めてインターネット経由で行う情報提供サービスです。

法人営業支援サービスとしての各種企業検索機能、企業情報サービスとしての対象企業に関する経営分析機能、ならびに、案件評価サービスとしてのシンジケートローンを始めとするプライシング機能をインターネットを活用したASPサービスとして提供いたします。収録社数も8万社を超え、売上が小さい多くの小規模事業者も財務データの入力作業なしに分析可能となっております。

EVシリーズの「業界リサーチ機能」の一部については、この新しいサービスでも、ネット経由でお気軽にご利用頂けるようになっております。

11月1日以降、サービスにご関心がある方に対して、フリートライアル期間を設定いたしますので、まずは試しに使い勝手を見てみたいという方は、弊社担当：佐々木takeshi_sasaki@credit-pricing.comまで是非ご連絡ください。

EVシリーズ・レポート バックナンバー

No.1	「Exit」の根拠は何ですか？	2005年7月1日
No.2	「未公開企業をリサーチする」	2005年7月20日
No.3	「信用リスク改善の落とし穴」	2005年8月19日
No.4	「企業評価と倒産確率モデル」	2005年9月9日

バックナンバーをご希望の方は、下記担当者までご一報ください。

本件およびEVシリーズに関するご質問・ご要望、ならびに、今後本レポートで取り上げるテーマに関するご要望を承ります。お気軽にご連絡を頂ければと思います。下記の電話またはEメールにてお待ちしております。

---配信元---

株式会社クレジット・プライシング・コーポレーション

〒104-0044 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー28F

TEL:03-3524-7220 FAX:03-3524-7221

URL:<http://www.credit-pricing.com/>

お問合せ窓口： 法月(のりづき)、佐々木 / einfo@credit-pricing.com